JGS ニューズレター42 号（2019／令和元年 8 月発行）

JGS 宝石勉強会

刀装具から日本の宝飾品の歴史を紐解く　に参加して

REPORTED by 兼先商店有限会社 代表取締役 兼先 正雄

先日開催された刀装具セミナーに参加しました。

江戸期の刀鍛冶を DNA に持つ身として外せないセミナーでもあり、いつもお世話になっている松室さんから「兼先さんのために開催する題材やから来てな！」とお誘いもいただき二つ返事で参加を決め、始発各駅停車で早朝の兵庫県北部の豊岡から馳せ参じました。

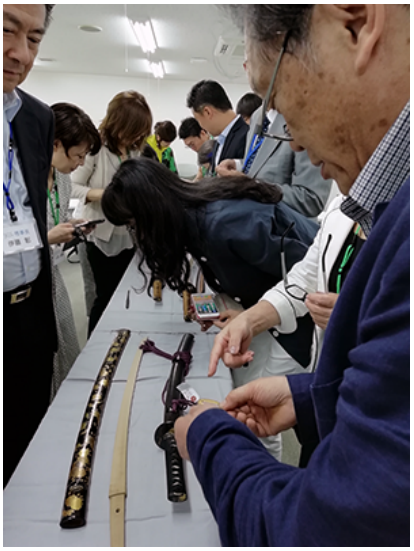
清水三年坂美術館所蔵品を村田館長自ら解説していただく GIA AAJ が主催するハンドリングセミナーも何度か参加させていただき興味の尽きない題材であり、宝飾業界に携わる者として知っておかないといけない日本の文化であり、無くしてはならない技術であると思います。

大学卒業後に剣道指導者として渡仏、明治期に流失した刀剣・刀装具の逆輸入に目を付けら武具・刀剣商を生業とされた猿田先生にも興味津々で臨みました。開会前の準備中から様々な作品を目にし、最初から興奮状態のスタートでした。

美術品としてだけでなく剣道家として道具としての意味もお分かりなのでとても楽しくお話をお聞きできました。現代では美術品の評価が高く恐れ多い芸術品のイメージが強いですが、当時でも〝用の美〟として町人からお侍さんまでが楽しんでいたのかと実感でき少し見方が変わりました。代表的な彫金技法の魚子模様の加工には女性が多く携わっていたとのお話も、嬉しい新たな知識となりました。

〒110-0015　東京都台東区東上野 1－26－2　オーラムビル 207
TEL:03-5812-4785 FAX:03-5812-4786 E-mail: info@japangemsociety.org

当然、依頼主の位や予算によって様々な作品があり、拵のパーツによって様々な職人さんが携わられ作り上げられることを考えると、私どもの仕事ももっと広がりのある仕事の仕方があるんではないかと刺激をいただきました。



猿田先生からも宝飾業界に対して「作家の名前が入ったようないい作品でご商売されないんですか？」ご質問いただき、刀装具は同じ作品が時間の経過とともに業界を還流して行くビジネスとのお話も聞き、ジュエリー業界でもリサイクルが一つのビジネスのあり方として熟成が必要だと痛感しました。

個人の宝飾店経営者としても、宝飾業界に対してもとても刺激的なセミナーを開催していただき日本宝石協会の皆様に感謝申し上げます。
ありがとうございました。